

Editor: Tom Toriyama, 6-9-21, Ohzenji-nishi, Asao-ku, Kawasaki, 215-0017 Tel/Fax 044-988-7773

New Year Dance 2010

1月17日(日) 1-4.30pm
赤羽会館 4F ホール (JR 赤羽駅 5分)
¥1,000

今回はミュージシャン集団による演奏です。
みなさんふるってご参加ください。

The Grassmarket Reel	2009
Hana Strathspey	Tokyo
Mrs Stewart's Jig	Bk 35
Balmoral Strathspey	Bk 22
Major Ian Stewart	Bk 35
Happy Returns	MMM
The Birks of Invermay	Bk 16
St Andrew's Fair	1982
Polharrow Burn	Foss

The Wild Geese	Bk 24
Fair Donald	Bk 29
John of Bon Accord	Bk 33
Follow Me Home	Bk 38
Tokyo Twenty Five	Tokyo
Sauchie Haugh	Lft 29
The Deil amang the Tailors	Bk 14

(全ダンスリカップします) ■

25周年記念 CD 完成

25周年記念ウィークエンドで披露された Tokyo Twenty Five と Hana Strathspey を含む CD ができあがりしました。いったんライブ・レコーディングで収録しましたが、演奏ミスが目立つとのミュージシャン意見により、10月に再録音しました。

演奏は小海弘子(ピアノ)、村山由美子(フィドル)、青山るり(リコーダー/クラリネット)のみなさん、選曲・編曲は小海弘子さんです。

CDのデザインとレイアウトは西森典子セクレタリ、録音・マスタリング・プレスはプロの手によるもので、著作権もクリアし、どこに出しても恥ずかしくない仕上がりになっています。お求めやすい値段です。ぜひランチショップにご注文を■

東京ランチ・クラス

(会場はそのつど変わります。ランチニュースをご参照、または担当にお問合わせください)

ビギナーズ・クラス

12月14日(月) 1.30-4.00

以降毎月第2・第4月曜日

千代田区総合体育館 5F

講師 三木真理・島山あさ子

¥500/クラス

担当 岩瀬よし子 043-232-4174

インターミディエイト・クラス

12月7日(月) 1.30- 講師 小杉由美子

千代田区総合体育館 5F

1月4日(月) 鈴木百代

2月1日(月) 堀 澄子

3月1日(月) 有田深雪

¥500

担当 青木幸子 03-3207-7856

アドバンスト・クラス

12月5日(土) 6.20-8.45 講師 長峯真弓

昌平童夢館 4F (秋葉原)

1月9日(土) トム鳥山

2月6日(土) 境 雅子

3月6日(土) 小幡正明

¥500

担当 寺久保ヒロ子 03-3801-6139 ■

ランチ新委員を

現在のランチ運営委員は2010年6月で任期切れとなり、次期委員を次回年次総会において決めなければなりません。

現委員会は候補者をつのっております。自薦・他薦いずれでも結構ですので、候補者のお名前をぜひ運営委員(だれにでも)にお知らせください■

これからのランチ行事予定

6月4日(金) - 6日(日)
ウィークエンド・年次総会
9月または10月
新ダンスブック講習会 ■

2010年資格試験

日本におけるティーチャー資格試験は2010年4月～5月に行なわれます。3ブランチ合同試験委員会(JEC-2010)は着々と準備を進めており、ボランティア・ダンサーを必要とするユニット3とユニット5の試験はつぎの日取りで実施予定です。

ユニット3……5月7日(金) 北トピア
5月8日(土) 中野サンプラザ
ユニット5……5月5日(水) 中野サンプラザ

その時期になったときあらためてボランティア・ダンサーをつのりますので会員のご協力をお願いいたします。前回、審査員から「セット8人全部が女性というのは好ましくない。男性4人が入るべき」というコメントがあり、今回は男性会員の奮闘を期待しています。

JEC-2010 メンバー

試験委員長	吉澤敦子	(東京)
セクレタリ	近藤ゆう子	(東海)
トレジャラ	綾部まゆみ	(埼玉)
委員	寺久保ヒロ子	(東京)
	増田祥子	(東海)
	掛川純子	(埼玉) ■

東京ブランチ運営委員

チェアマン	トム鳥山	044-988-7773
セクレタリ	西森典子	043-485-2528
	bon-accord24wood@kfy.biglobe.ne.jp	
トレジャラ	篠塚昌子	029-855-4728
メンバーシップ・セクレタリおよび ニュース担当	三木真理	0466-81-9961
	enoshima.thistle@extra.ocn.ne.jp	
委員	青木幸子	03-3207-7856
	岩瀬よし子	043-232-4174
	鈴木幸子	045-983-1010
	寺久保ヒロ子	03-3801-6139
ウェブサイト	吉澤敦子	029-841-0767

RSCDS 新 Book に 150 以上の応募

2010年のRSCDS新ブック審査用にブランチはTokyo Twenty Fiveを本部に提出しました。セクレタリに入った情報によると、本部には世界から150以上のダンス提出があったとのことでした。

過去の例に従い、本部は各ブランチに予備審査を依頼するとのことなので、わがブランチも対応を進めています。運営委員会で担当グループを選び、グループでの評価と運営委員会評価をまとめ、本部に回答することを考えています ■

ポロシャツありがとう

東京ブランチ25周年を記念してロゴ入りのポロシャツをつくり、会員ならびにわがブランチにかかわった外国人ティーチャーに送りました。会員からの反応は皆無と聞いていいくらいでしたが、外国からは「びっくりした。25周年おめでとう。これからもますます活躍を」のことばとつぎのメッセージが寄せられました。一部を紹介します。

アイリーン・ワット

本部で商品発送と試験管理をやっていたことを覚えていてくれ、とてもうれしい。

エリー&メル・ブリスコー

1995年の合宿ティーチャーを忘れていなかったんだ。とてもうれしい。

レスリー・マーティン

みなさんのことを思いながら誇らしい気持ちで着ます。初めての試験トレーニングは忘れることができない思い出です。

ジェニファー・ウィルソン

ビル・アイアランドとわたしが行ってから15年もたつなんて信じられません。いつもわたしの生徒にその写真とか旅行のことを話しています。忘れられない旅行でした。

セシル&エルマ・マコースランド

とくに松橋順子さんの東京ブランチ創立への大きな貢献を思い出します。

リンダ・ゴール

誇らしく、うれしい気持ちで着ます。

シンクレア・バーバー

2002年の日本訪問は楽しい思い出として残っています。

アレスター・マクファジェン

うれしいお便り、写真、ポロシャツ、ありがとう。旅行中の手配、気配り、観光にとっても感謝しています。みなさんにこの気持ちをつたえてください。

アン・ディックス

体にぴったり！このうれしい気持ちをみなさんにつたえてください。

クレメント篤子

お心遣いありがとう。

ピーター&パット・クラーク

マルタ島から戻ってきたらポロシャツがとどいていました。忘れないでいてくれ、感謝しています。

その他モーリーン・ヘインズ、レイチェル・ウィルトン、ブルース・フレイザー、モーラ・グ・ネピア、ヘレン・フレーム、ジーン・マーティンからもお礼の返事がありました■

運営委員会報告

6月6日

1. Weekend 2010 会場下見報告。体育館は設備、内装がよくないので、レイクホテル西湖内のホール2つを使う。ホテルの見積額も妥当なのでここに決定する。
2. 25周年記念のポロシャツ海外贈呈者から感謝とお祝いのご報告がとどいている。
3. 25周年 CD は演奏者から再録音を要請されているが、ダンシングには差し支えないので、予定どおりプレスすることで演奏者から再度了承を得ることにする。

7月4日

1. New Year Dance 2010 は1月17日(日)赤羽会館が確保できたので、今後プログラムなど細部をつめてゆく。
2. Weekend 2010 は講師や MC の候補をあげた。いつもの顔ぶれよりも地方のティーチャーを、の考えで人選することにした。
3. 25周年 CD は演奏者の了承が得られなかったので再録音とし、ランチショップの収益を再録音費用に充てる。再録音時期は9月

中に、を演奏者に申し入れる。

4. ブランチ・クラス講師は新しい人の登場を期待して委員会から個々にお願ひし、未定のところもあるがほぼ担当期日を決定した。
5. レター、年会報担当のコンピュータ不調により出版が遅れている。発行は9月にずれ込む見込み。
6. 1月のNew Year Dance まで半年間クラス以外の行事がないのはいかがかということで、10月31日(土)にソーシャル・ダンシングを行なう。会場は大久保地域センター。

8月はサマースクール参加で欠席する委員がいるため、開催しなかった。

9月5日

1. 25周年 CD は10月上旬にオーディオ・テクニカのスタジオを借用し、再録音する。クレメント篤子さんから依頼のあった Bill Clement MBE も著作権に問題なければ CD に組み込む。
2. 下期のブランチ・ビギナーズ・クラスの講師選びで苦労したが、6ヵ月という期間がネックとなっているため、次回の講師選びでは改善策を考える。
3. 10月31日(土) ソシャル・ダンシングのプログラムを決定した。

10月3日

1. New Year Dance 2010 のプログラムを決定した。2009年は1.30 pm から開始したが、2010年は1.00 pm から開始する。音楽はボランティアをつのり、アンサンブルで行なうが、まとめ役のミュージシャンが必要なので候補者を選んだ。
2. 25周年 CD は10月2日、丸1日がかかりで再録音した。プレスはパソコンで家内工業的に複製することを考えていたが、専門業者にやってもらったほうがよし、プレス費用を見積ってもらおう。
3. Weekend 2010 はタイムテーブルをもとに講師・MC 候補を人選した。これから都合を問合せてゆく。
4. 2010年の新Book用ダンス審査のために本部から候補ダンスが送られてくるとのこと。以前はティーチャーによる実技審査会を開いたが、今回は時間・会場に余裕がないと思われるので数グループを選び、その意見を聞き、委員会で最終結論を出して本部に回答する■

セント・カサリンズ・ブランチ (カナダ) 50周年

日本にたびたび来訪されているホーン喜美子さんのセント・カサリンズ・ブランチ (カナダ・オンタリオ州)は2010年に50周年を迎え、5月1日、大々的にボールを開催します。

日本のダンサーと踊るのを楽しみにしている会員も多いとのこと、近くのナイアガラ観光も含め、5~6日間の計画をホーン喜美子さんの助言をいただいて、ぜひお考えになってはいかがでしょうか。

同地は男性ダンサーが多く、女性の参加を特に歓迎しています。またご家族や友人の同伴も可で、現地ダンサー宅でのホームステイも歓迎しています。ホーン喜美子さんにお気軽にご相談ください■

Kimiko Horne Tel +1-905-938-3396
e-mail: khorne56@sympatico.ca

ブランチ・クラスで踊ったダンス

ビギナーズ・クラス 神倉那智子・掛川純子

4月13日

The Highland Fair	Gr Bk
Galloway House	Gr Bk
A Reel for Jeannie	Bk 40

4月27日

Mrs Stewart Sinton's Reel	Gr Bk
Espie MacNabb	MMM
The Deil amang the Tailors	Bk 14

5月11日

The Camp of Pleasure	Bk 15
Duchess of York	Bk 27

5月25日

Corn Rigs	Bk 4
Linton Ploughman	Bk 5
Monymusk	Bk 11

6月8日

My Mother's Coming In	Bk 15
The Express	Bk 20
Balmoral Strathspey	Bk 22

6月22日

Lady Lucy Ramsay	MMM
Mrs Stewart's Jig	Bk 35
Sleepie Maggie	Bk 10

7月13日

Balquidder Strathspey	Bk 24
-----------------------	-------

The Wild Geese	Bk 24
The Maid of Currie	Children

7月27日

Lady Catherine Bruce's Reel	Gr Bk
Ways in New Hall	Bk 42
Lady Glasgow	MMM

8月10日

The Isle	Gr Bk
Mrs MacLeod	Bk 6
The Braes of Tulliemet	Bk 7

8月24日

Sugar Candie	Bk 26
The Edinburgh Castle Reel	Children
Scottish Reform	Bk 3

9月14日

Inverneill House	Bk 35
A Jig for Mrs Dunn	Children
The Birks of Invermay	Bk 16

9月28日 (総復習)

Mrs Stewart's Jig	Bk 35
Corn Rigs	Bk 4
Balmoral Strathspey	Bk 22
The Wild Geese	Bk 24
The Deil amang the Tailors	Bk 14
Sugar Candie	Bk 26

インターミディエイト・クラス

4月6日 小山かおる

The Swilcan	Bk 23
Miss Florence Adams	Bk 38
Tokyo Twenty Five	Tokyo Br
Hana Strathspey	Tokyo Br
The Homecoming Dance	5/2009

5月4日 鈴木百代

A Capital Jig	5/2009
Fife Ness	4/1978
The Beekeepen's Medley	

6月1日 近藤幸子

Over the Waves	Skelton
An Ocean Frolic	Skelton
Aird of Coigach	Bayly
Allanton Lassies	

7月6日 渋谷明美

Back to the Fireside	Bk 38
Gang the Same Gate	Bk 36
Todlen Hame	Bk 16

8月3日 長峯真弓

Festival Interceltique	4/2008
Leander's Jig	Lflt
Jean Martin of Aberdeen	3/2006
Drive the Hot Summer Away	Obata

9月7日 掛川純子	
Miss Allie Anderson	Lflt
Bedrule	Bk 34
The Inimitable Derek	3/2006
10月5日 若松陽子	
Lady Baird's Reel	Bk 18
Drumtochty Glen	Lflt
Alyth Burn	Bk 22

アドバンスト・クラス	
4月1日 境雅子/市川洋子	
Captain's Round	Hunter
	Valley Br
Miss Devon's Reel	Bk 20
Vin Tyndall of For far	Lockwood
Bonnie Mackinnon is 21	Jay
Cockle Mill	Green
The Sea Caves	Green
Harry and the Harem	Melbourne
	Branch
5月2日 鳥山豊喜/本守明美	
Short and Sweet	Bk 30
Lady MacIntosh's Rant	Bk 4
The Buchan Eightsome Reel	Bk 21
Muckle Burn	Barbour
Miss Janet Laing's Strathspey	Bk 22
6月6日 林浩子/市川洋子	
Bonnie Ina Campbell	Bk 37
The Isle of Mull	Bradley
MacLeod's Fancy	Bk 33
The Young Pretender	Priddey
Inveran Bridge	Attwood
7月4日 中田多鶴子/村上美枝子	
Longwise Eightsome Reel	Bk 18
The Virginia Street Reel	Waverley
	Suite
Floating on Air	Drewry
Start without Me	McMurtry
MacGregor's Gathering	Holden
8月1日 近藤幸子/市川洋子	
Rob Roy MacGregor	Bk 26
Rob Roy's Sporrán	McMurtry
The Dancing Waves	Dancing
	in Southern
Fox in the Wood	McMurtry
Jenny's Well	Zadworny
9月5日 小山かおる/服部雅好	
Quadrille Country Dance	MMM
Auld Lang Syne	Bk 27
The Cranberry Tart	Glasspool
The One O'Clock Canon	Brockbank
(次号につづく)	

The Valentine

ーリンダ・ゴールから申し入れー

RSCDS の 2009 ダンスにリンダ・ゴール作のストラスペイ The Valentine があります。6月、西森セクレタリの問合せに対し、リンダからつぎの回答がありました。

「説明書きにミスがある。Bars 27-28 は3カップルともセットのなかで setting する (The Dean Bridge of Edinburgh のように) のであるが、ちゃんとそう述べた原稿を送ったのに、なぜ間違ったのか不思議である」

以上は最近発行の RSCDS マガジン第8号の6ページに訂正文がありますが、ご注意ください。なおダイヤグラム追録版はリンダの指示どおりになっています■

Glens of Angus の終わりかたは?

ーテクニク Q and Aー

RSCDS ウェブサイトの「Dance Query?」で会員からよせられたステップ、フォーメーション、ダンスの質問と回答のなかから4つのダンスの Q and A を紹介します。

The Glens of Angus

Q: Book 23 原本では最後の4小節は all cross to own sides and set となっている。昨晚のクラスで、これは set and cross のほうが正しいという説明をうけた。そうだとすればマニュアルに指示すべきではないか?

A: Book 23 初版 (1967年) では cross and set である。しかし 1968 年のポケット版では set and cross over に訂正した。1992 年のマニュアル旧版では注意書きがあったが、新マニュアル (2005) ではこれが抜けている。

John of Bon Accord

Q: Bars 16 の終りに、1st couple はどこにいればよいのか? Middle of set をより明確にしてほしい。

A: かた苦しく考えると 1st man は 3rd man's place, 1st woman はセットのまん中となる。しかしながら両者とも bars 17-18 のターンを考えるべきであり、1st woman はセットの中でややダウン側、1st man はループを続けてセットの中でパートナーと会う。言いかえれば、1st couple は 3rd place でセットの内側に位置する。

Anna Holden's Strathspey

Q: Book 42 で、bars 15-16 において 2nd couple は dance up to first place on own sides となっている。多くのティーチャーはこれを厳密に解釈し、2nd couple はストレートにサイドに入るとしている。

しかし、2002 年のセント・アンドルーズにおける Book 42 の Teaching Notes では 2nd couple はループしてサイドに入れ、となっている。どちらがよいのか？

A: どちらでもよい。

The Dream Catcher

Q: Bars 9-16 の動きのなかで、bar 12 で 1st および 3rd couples はどの位置にいればよいのか？ 2nd と 4th couples の間か？ それとも 1st および 3rd positions に背中を向けるのか？ また、left hands across は 1 回転か、それとも 3/4 回転か？

A: 1st および 3rd couples はそれぞれ original places を向く。left hands across は bars 13-15 で、3/4 回転以上、1 回転未満である。Bars 16 でやや前進しながらピルエット・ターンし、2nd または 4th couple に向かい合う ■

SCD よりもカカドウが印象的？

ーオーストラリア・ウィンタースクールー

7 月中旬、シドニーの南 150km のリゾート地カイアマで開かれた 1 週間の第 34 回オーストラリア・ウィンタースクールに 14 名のダンサーが参加した。このスクールはオーストラリアの 7 ブランチが持回りで主催し、ことしはシドニー・ブランチの担当、来年は南オーストラリア州のアデレード・ブランチが主催する。

スクールはベリー・アドバンスドから子ども部門まで 6 クラスに分かれ、午前中は 2 セッション、午後はオプション・クラスがあり、毎晩ソーシャル・ダンス会が 2 か所である。

VA クラスの先生は第 1 セッションがヘレン・ラッセル、第 2 時限目はシドニーのブライアン・チャールトンだった。ヘレンは Skip change から Slip step, Pas de Basque から Slip step などのトランジションを RSCDS ダンスを使って指導した。旦那のイアン・ラッセル（生徒参加）がユーモアを引き出していたが、概してヘレンにはにこやかなところは少なく、生徒のテクニック向上には益してもそれほど愉快的なクラスとはいえなかった。本部の教育・訓練委員長になってからヘレンは笑顔が薄れた。

Napier's Index (Book 45)の作者であるブライアン・チャールトンは初老のおじさんで、トップに立って言葉だけで指導したが、Sea Green (Drewry)、A Tribute to Talent (Goldring)、Rob Roy (Foss) など非 RSCDS ダンスを教えた。日本人ダンサーにとっては目新しいダンスがほとんどで、ヘレンよりもこちらのほうが楽しかったように思う。



最終日のグランド・ボール

ソーシャル・ダンスはウォーク・スルーつきの会場とリカップのみの会場とがあり、前者はクリス・ダンカン、後者はデビッド・カニングム・バンドが演奏した。

午後のオプションに「日本の味」と題する 1 時間半が設けられ、日本の SCD 界の昨今を説明し、Tokyo Twenty Five をデモし、折り紙づくりを参加者に楽しんでもらった。

日本人ダンサーは大歓迎され、オーストラリアの人はみな親切、宿舎からダンシング場まで手分けして毎回車に乗せてもらった。朝食はパンとコーヒーだけのコンチネンタル・スタイル、昼は品数は多いが毎回おなじメニュー、夜は大陸式の大らかな量であった。

冬といっても日中は 15C で東京の 11 月上旬の気温、豚インフルエンザの流行は TV ニュースのみでオーストラリア中、どこでも気にしていなかった。

ウィンタースクール終了後、一行はシドニーで 2 泊し、ついで北部の熱帯都市ダーウィンで 4 日をすごした。まずシドニーの南 250 km のポート・スティーブンスではイルカ・ウォッチング、コアアラ探し、大砂丘で砂すべり、海岸で貝探し、ワイナリー訪問を楽しんだ。琵琶湖ほどの湾にイルカが定住し、見られると思うがそうでないこともあるとのふれこみのもと、双胴船に乗り込んだ。沖に出、やがて直前に船を先導するように 3 頭のイルカが現れ、一同大興奮した。そのあとコアアラも見つけ、傾斜 30 度の砂丘すべりを楽しみ、貝探しも面白かった。

北半球ならカンボジアに位置するダーウィンは乾季で雨はまったく降らない。シドニーから4時間半の飛行で、オーストラリア人でもめったに訪れない。物資はみな南から運ばれるので物価が高く、行くのならさらに北のインドネシアに行くよ、という人が多いそうだ。日本人団体客も年に4、5グループという。

8時、一行は350km東のカカドゥ国立公園に向かった。ダーウィン近郊のマンゴー畑を抜けると各種ユーカリの林が続く。カカドゥは四国ほどの広さがあり、先住民アボリジニの聖地でもある。シロアリ塚の原野を突っ走ったのちにイエローウォーターに着き、ボートに乗り込んで湿地めぐりになった。12月～3月の雨季になると深さ3メートルに水没する大氾濫原であるが、いまはクリークになっている。ワニの昼寝、各種の野鳥、バラマンディという肉食魚のフィッシングをゆっくり見物する。舟遊びのあと、アボリジニの岩壁画を観光し、ホテルに入る。ワニをかたどったホテルで、国立公園内のため簡素な設備と食事を予想したが、なんとこの旅行で最高の設備とバイキング食であった。カンガルー肉ステーキをそれと知らずに食べた人もいるらしい。



シロアリ塚(これは中くらい)をバックに

カカドゥ 2日目はふたたび別の岩壁画を見物し、聖地の岩山に上って広大な眺望を楽しんだ。夕刻ダーウィンに戻り、アンガス&プカ・ヘンリー夫妻が主宰するノーザン・テリトリー・ブランチとの合同ソシヤル・ダンス会に行く。設立時約60人のブランチ会員は内紛で10人程度に減り、いま再建中という。ダンス会は24人ぴったりで休むひまもない。冷房なし30Cの会場でみなげんなりし、予定を早めて終わる。

翌日は自由行動日、ダーウィン港栈橋をのんびり歩き、最後の1日をすごした。多くのメンバーの感想は「ウィンタースクールもよかったけれど、ふだん行けないカカドゥが思いのほか楽しかった」 ■

南極で踊る

バーバラ・シャープ (レスター・ブランチ)

アレックス・グレイは「ダンスのない大陸は北極と南極だけである」と述べたことがある。ちょうど南極観光を予約したときで、じゃあやってみようとひらめいた。

なにを踊るか? スピアーズ・ブルースのスコシア探検隊が南オークニー諸島を訪れてから百年有余、Scotia Suite 中の The Piper and the Penguin が最適と思われた。

私1人ではできないけれど、同行の友人たちの助けを借りればいわずと、CDとダンス説明書をスーツケースの中に押し込んだ。

40人の観光客は2009年1月、アルゼンチン南端のウシュワイアから乗船した。ツアーリーダーたちにアイデアを伝え、とっぴだけれど面白いという返事もらった。スコティッシュ・ダンシングが日程に組み込まれたのである。

みなさんに知ってほしいのは、船は豪華客船ではないことである。小さな観測船を改造したもので、長さ60m、水面から船底まで3.6m、もちろん舞踏室なんかはなく、練習の場もない。風するとき、後部デッキが使えるくらいである(前部デッキはいつだって強い風がある)。

いま、練習しても大丈夫、と急に船長から連絡が入る。すると16人が後部デッキに集まる。16人というのは私が思っていた以上の数だ。

つぎの問題は音楽である。だれもCDプレーヤーを持っておらず、音楽が聞けるのは船のバーだけだった。練習はカウントだけでやった。巻揚げ機、ドラム缶その他もろもろの障害物を避けながらやったのである。

日程では天候がよければローリー島に上陸することになっていた。ここはブルースが1902年に気象観測所を設けたところで、私はここで踊ろうとひそかに思っていた。けれども島に近づいたとき、踊れるような場所ではないことがわかった。氷に覆われてはいなかったが、もろい岩で危険だった。

いまでは船の全員が私を助けてくれようとしていた。踊らない人も音楽問題を考えてくれた。2人の船客が勇ましいことにラップトップ・パソコンを持ち込んでおり、CDをMP3に入れることを助けてくれたが、みなさんMP3プレーヤーをお持ちでも、スピーカーはなかったのである。

防寒ブーツ、耐水服、救命胴衣を着て、私たちは小型ゴムボートへのタラップを降りた。ゴ

岐阜 SCDC

チルドレンズ・グループ

岐阜 SCDC のサマーボールに参加して楽しくすごしてきました。小学低学年のデモは非常に楽しく、すてきな笑顔がいっぱいのダンシングでした。また、こどもたちは毎週いききと練習に励んでいるとのこと。地域での活動をランチ会員に知ってもらうことは大切と思い、本文を送ります。(細海 修)

ムボートは氷の南極海を走った。ボート・ドライバーは舟を岸に近づけ、波の高まりと同時にわれわれが岸にジャンプできるよう舟を操縦した。タイミングを合わせるのがむずかしかった。パソコンを思いどおりに動かすのがむずかしいのに似ている。危険を冒すわけにはいかない。

われわれが南極半島のビーク島 (Beak Island) に上陸したのは 2009 年 1 月 15 日で、すべて順調のように思えた。波がよせる岩場の岸だったが氷に覆われておらず、なんとかかなりそうなスロープで、氷塊が岸にあるだけだった。とはいえ、デモ・チームなら尻込みするような場所である。ここはペンギンの生息地であるが、都合よくペンギンはいなかった。というのはペンギンを驚かせたり、傷つける心配がなかったためである。でも音楽はどうする？ なにもないなら、ア・カペラでやろう！

結局、へんな服装の南極デモンストレーション・チームが 2 セットでき、15 人の観客を前にして、気を引き締め、奮起させる *Scotland the Brave* で *The Piper and the Penguin* を演じた。アデリー・ペンギンが見たなら、きっと当惑しただろう。

足はふらつき、テンポは気まぐれ、手のとり方は不格好、とくカバリングはなっていなかったと思う。けれどもみんなが楽しんだ。南極で踊ったのだ。ミス・ミリガンもよくやったというにちがいない■

RSCDS 最近の話題

1. AGM 2009

11 月 7 日、パースで開かれた。2009 年の功労賞受賞者 (カッコ内推薦ランチ) は
ドロシー・ハミルトン (グラスゴー)
イザベル・マクファーソン (トロント)
バーバラ・ピール (会員サービス委員会)
ジーン・シム (教育・訓練委員会)
ジーン・コンウェイ (キャンベラ)
パット・コイル (セント・カサリンズ)
ジェフリー・セリング (デラウェア・バリー)
エリザベス・ウィルソン (東アンガス)

2010 年 7 月 - 2011 年 6 月の会費は 15 ポンドに据置かれた。

金曜夜のボールには 562 人が参加し、デビット・カニングム・バンドで、プログラムはプレトリア・ランチが作成した。

土曜夜は 570 人がジム・リンジー・バンドの演奏でロイヤル・タンブリッジ・ウェルズ・ランチ作成のプログラムを楽しんだ。

2. Book 7 & 17 の CD

11 月、AGM にあわせて発売される予定だったが、まだ発売にいたっていない。それほどは遅れない見込み■